

■オランダ：Vattenfall が初めての大型ハイブリッド発電所を建設へ

エネルギー・環境情報サイトは2019年8月13日、大手電力事業者のVattenfallが初めての太陽光・風力・蓄電池を組み合わせたハイブリッド発電事業をオランダ南部で実施すると報じた。具体的な規模は太陽光発電が3万8,000kW、風力発電が2万2,000kW、蓄電池は1万2,000kWhで、風力発電設備の建設は既に開始され、今後、太陽光発電、蓄電池の設置が行われ、2020年後半にはすべての設備が完成する予定である。Vattenfallの関係者は「個別に発電設備を設置するよりも、太陽光と風力を組み合わせて設置する方が系統への負担は少なく、さらに蓄電池を追加することで系統を効率的に活用できる」としている。また、ハイブリッドとすることで、気象条件に依存する発電量予測の不確実性を低減できるメリットもあると関係者は述べている。